

第2回「雲南・日本蕎麦交流会」

中尾佐助先生や大西近江先生が発表されている通り、蕎麦栽培発祥は中国南西部であることは、江戸ソバリエの皆様ならご承知のことと思います。

その南西部に位置する雲南省と日本が、共通する蕎麦文化を通じて交流を深めようというのが「雲南・日本蕎麦交流会」です。

第1回目は2009年3月に雲南省の省都昆明市で開かれ、第2回目は2012年8月に雲南省玉溪市で開催されました。

私も仲間とともに参加し、蕎麦打ち、天麩羅を披露してまいりました。

今後も両国のため、蕎麦のため、その一助としてお手伝いできれば幸いだと思っています。

江戸ソバリエ・ルシック、雲南食文化研究会会長 平林知人

第2回「雲南・日本蕎麦交流会」報告

日本・雲南聯誼協会 雲南支部 林 娜

8月3日(金)、その日は、私は雲南省昆明市のお隣、玉溪市の中玉ホテルに滞在していましたが、朝からバタバタしていました。玉溪市海外聯誼会の協賛で第2回「雲南・日本蕎麦交流会」を開催する予定だったからです。

日本からは、平林知人会長率いる雲南食文化研究会5名、それに協会大宮支部寺内明子支部長他3名の計8名が玉溪入りしていました。

両国に共通する蕎麦文化を通じて交流を深めようと言うこの企画、第1回目は2009年3月に昆明で行われています。

前の日ホテルに着くのが遅かったため、早朝から足りない物の買い出しに出ました。蕎麦の他に、天ぷらも作る予定もあり、二班に分かれて慌しく準備開始。当日になって道具の不足も明らかになり、市政府や会場ホテルも巻き込んでのドタバタ劇となりました。

みなさんの協力もあり、なんとか準備も整って、開始予定時刻の10時半には交流会が始まりました。平林先生の腕は天下一品で、蕎麦打ちの実演では、30名を超える中国側参加者が取り囲んで感嘆の声を上げていました。

当日はTV局の取材も入り、先生の蕎麦打ちから天麩羅作りまで、忙しくビデオを回していました。

お待ちかねの試食タイムでは、目の前で作られた蕎麦を味わい、皆感激のご様子。日本蕎麦の素晴らしさが、玉溪の人々にも伝わったようです。



マスコミの取材もあり、会場は日中合わせて50名近い参加者でいっぱい



平林知人先生の蕎麦打ち実演



会場ではなんと天麩羅も揚げちゃいました！

続いて、中国側の代表が、雲南でよく食べられている「蕎麦餅」作りを披露。日本からの参加者は、蕎麦粉から作られた見たことのない料理に、感心することしきり。

最後は、参加者全員で記念写真を撮影し、お開きとなりました。

今回の企画に協力してくださった玉溪市政治協商会議並びに玉溪市海外聯誼会の皆様、どうもありがとうございました。



以上

(江戸ソバリエ協会注) 中国蕎麦事情につきましては、同じく「国境なき江戸ソバリエたち」の下記ページをご参照ください。

- ①2012. 2. 北魏、
- ②2011. 12. 雲南、
- ③2011. 9. 北京・承德、